

京都産業大学

ことばの科学研究センター

2023年度第7回研究会

2024年1月24日(水) 14:00~16:00

4号館2階総合学術研究所

リーダーコーパスの構築・分析

「読みやすさ」を測る指標の確立を目指して

加野 まきみ (ことばの科学研究センター員・文化学部教授)

従来、英文の読みやすさを評価するには、いくつかの指標が用いられてきたが、これらの評価指標が同程度であっても、読み手、特に英語学習者にとっては「難しい」と感じるものと「読みやすい」と感じるものがある。本研究では、学習者が学習の過程で読む様々なリーダーを収集したコーパスを構築し、語彙レベル、語法・意味の多様さ、文の構造の複雑さなどの観点から比較・分析し、「難しさ」の要因となり得る言語的特徴は何なのか解明を試みる。

天孫降臨の主導者—『日本書紀』「神代巻」の書き換え—

森 博達 (ことばの科学研究センター員・京都産業大学名誉教授)

天孫降臨の主導者は、「神代紀」の一書(異伝)では天照大神とされるが、正文では高皇産霊尊である。この一書の表記と文章は、文武朝に綴られたβ群の特徴をもっている。

- 一方の正文は倭習が少なく、元明朝に加えられた巻30「持統紀」と共通する文体もある。
- 投影論の立場からすると、天照は持統であり、皇孫は軽皇子(文武)である。他方、高皇産霊は藤原不比等であり、外孫は首皇子(聖武)となる。高皇産霊尊を主導者とする天孫降臨神話は書紀編修の最終段階(714年以降)で加筆され、正文とされたのだ。